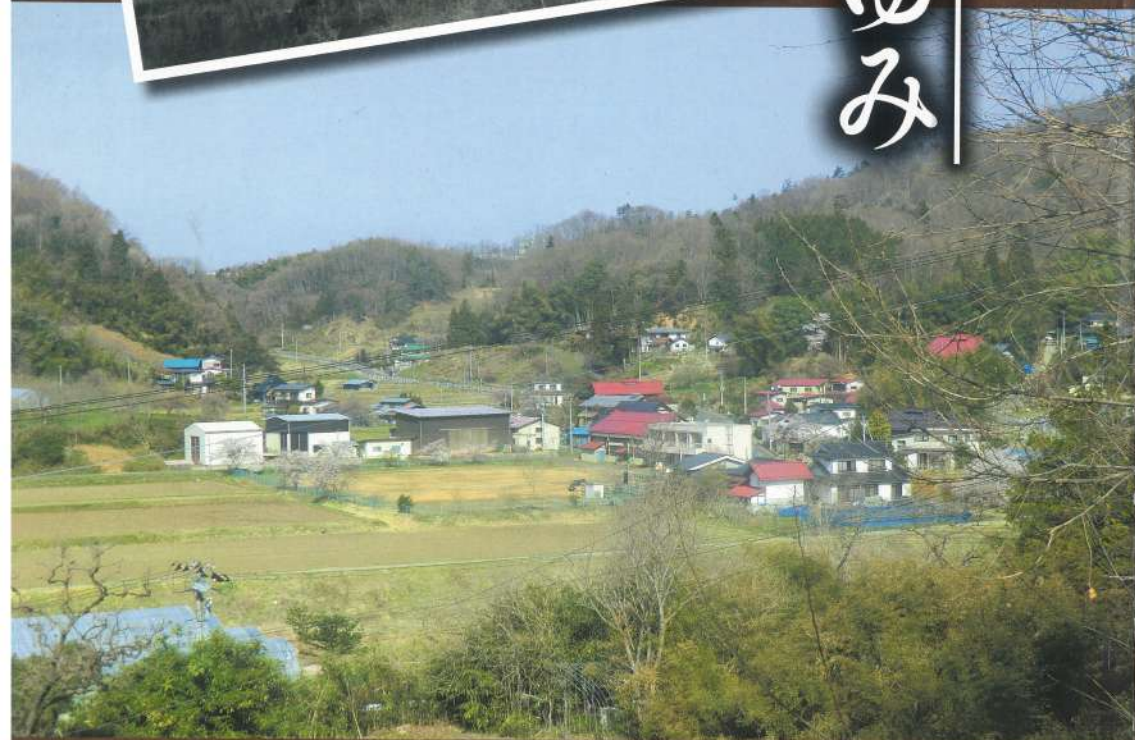


NAKAGAWA



中川区民会
50年のあゆみ



1964 ~ 2014

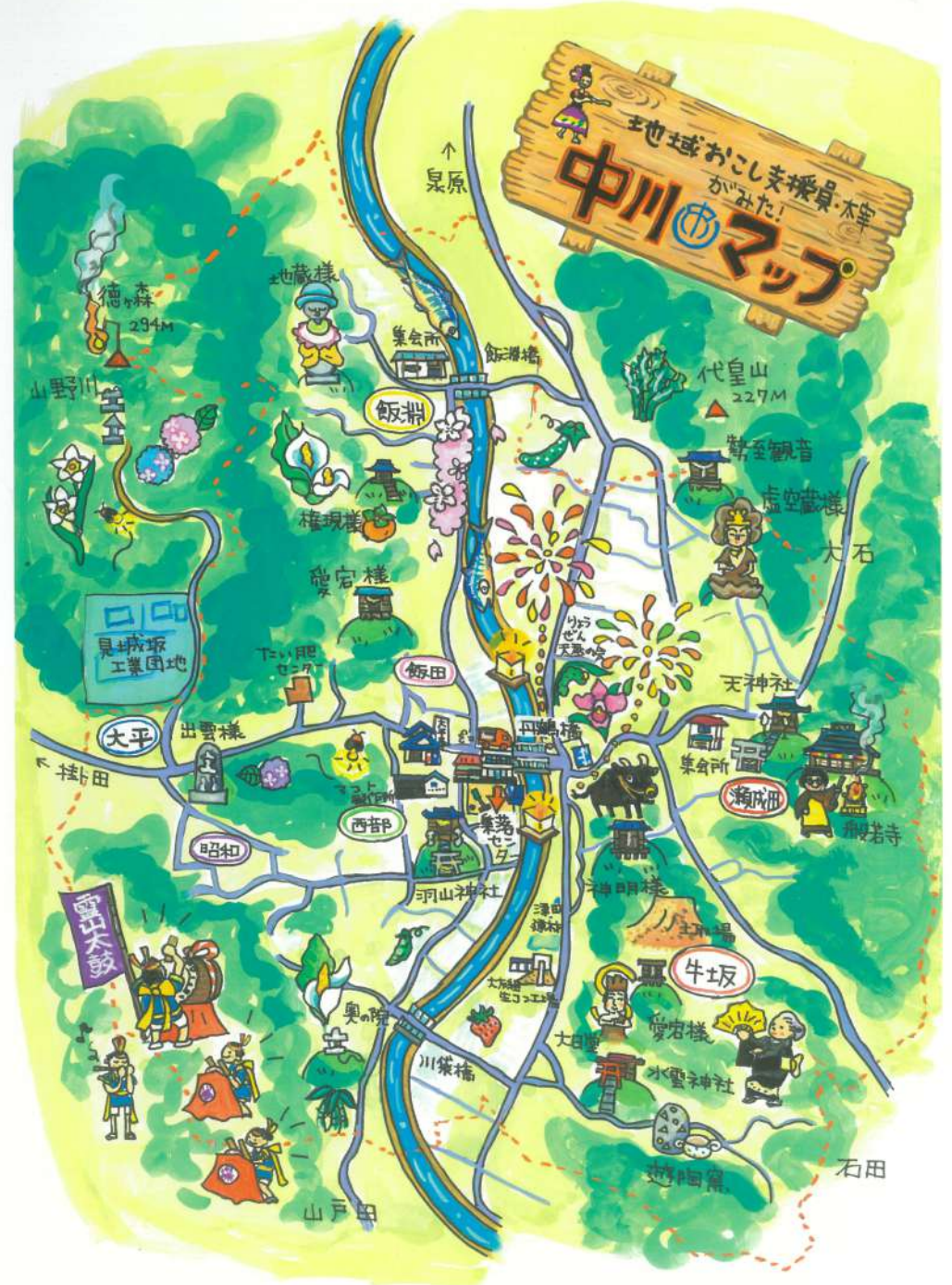
中川区民会
50年のあゆみ



中川区民会 50年のあゆみ



代皇山よりセンター方面を望む



目次

2	区民会50周年を迎えて.....	中川区民会 会長 菅野 保雄
3	中川区民会創立50周年を祝して.....	伊達市長 仁志田昇司
4	中川区民会 50年のあゆみ	
8	あの時を顧みて.....	第4代会長 齋藤 吉昭
16	中川の自然・生活環境を守る会活動 — 中川区民会長時のかかわり —	第10代会長 柳沼 泰衛 第11代会長 齋藤 行應 第12代会長 柳沼 定男 第13代会長 菅野 勉 第14代会長 齋藤 博
18	区民会創立50周年に寄せて	
19	会長時代の想い出	
20	会長時代の想い出	
21	中川区民会50周年によせて	
24	ふる里ながわの記憶	
24	中川集落センター創設時の思い出	柳沼 泰衛
24	霊山神社百年記念祭典について	柳沼 泰衛
25	手作りの運動会	柳沼 農夫雄
26	青空市場	柳沼 莊一
27	区民会に携わったこと	菅野 ステ
28	太鼓との出会い人との出会い	松本 幸治
29	50年の歩みを顧みて	大友 京子
30	区民会の行事に参加して	菅野 真梨子
30	区民会に参加して	牛坂 氏家 未夢
31	中川の世話人たち	
31	歴代会長	
32	中川区民会・歴代役員名	
34	「放射能除染対策」中川区民会の取組み	
35	編集後記	



飯淵権現様



区民会50周年を迎えて

中川区民会 会長 菅野 保雄

中川区民会創立50周年の式典とあわせて記念誌を発行することになりました。

本会が充足した昭和39年当時、日本は高度経済成長期を迎え、テレビ、洗濯機、冷蔵庫などが三種の神器と言われ、生活水準のパロメーターとして、一般家庭に普及し始め、当中川地域においても例外なく従来の生活様式が一変した時代と記憶しております。一方、生活様式の様変わりとともに、少子化、核家族化へと緩やかに変化の兆しが現れはじめた時代でもありました。

そのような背景から、これからの地域づくりを課題として、有志が正しい、協議を重ね、区民会を立ち上げた何と何とております。

正に、こうした先人の英知は地域の結びつきがより一層高め合ってきたものと感じております。

さて、私は千年に一度と言われるほどの平成23年3月11日に発生した東日本大地震の翌年、平成24年度より本会の会長に就くことになりました。大地震により福島第一原子力発電所、1号機から4号機に至るまで爆発し、今もなお、目には見えない放射能に恐れ、おのきなながらも助け合い、励まし合いながら区民一丸となってこの地に根ざし生き抜く以外にはないものと思っています。

放射能に関連して、区民会という組織があったことによって他に誇れることがあります。

当地域は、放射能除染B地域に指定されておりました。仮置場が決まれば前倒しで除染を進めることができるという市担当者からの話があり、早速、区民会役員、各行政区長さんと市担当者を交えて協議をした結果、各行政区から仮置場候補地を応募してもらうことにしたところ、6か所ほど候補地がありました。その中から、協議、検討した結果、竹田沢地内に決定されたものであります。現在中川地域内す

べての放射能汚染物が保管されています。平成25年度4月から実施予定を平成24年度末までに6か月早めて終了することができました。

組織の力は、困難な問題に直面したときに発揮できるという事を切実に感じました。

仮置場として提供されました地権者の皆様をはじめ、区民各位のご協力とご尽力に対し改めて感謝申し上げます。

さて、区民会の事業活動に触れてみますが、平成23年度の灯籠流し、盆踊り、花火大会などの納涼祭は原発事故による放射能被ばくの問題が生じ中止いたしました。

同年秋に予定の芋煮会、敬老会などの中川まつりは、放射能の問題を抱えながらも、放射能汚染食材を取り扱わないようにするなど細心の注意を払いながら開催することとしました。

平成24年度以降はセンター前広場の除染が完了し、本会の柱となる事業、夏の納涼祭、秋に開催の中川まつりも従来の姿に復活することができました。これも偏に、市当局のご援助をはじめ、区民の皆様よりの多大な区民会会費のご負担を仰ぎながら区民会活動を進めさせていただいているところであります。

また毎年開催いたしております納涼祭花火大会にあたりましては、当地区に關係する事業者の皆様をはじめ、区民の皆様からの多大な浄財を基として開催いたしているところでございます。

今後とも皆様のご支援、ご協力を賜りながら中川区民会がますます発展するのを祈念いたすものであります。

このたび、記念誌の発刊に当たり寄稿された方々、写真の提供などご協力をいただきました皆さんにお礼申し上げ、結びのことばといたします。



中川区民会創立50周年を祝して

伊達市長 仁志 田昇 司

中川区民会が創立50周年を迎えられましたこと、心からお喜び申し上げます。

今から50年前というのは、ちょうど東京オリンピックの年であります。当時は日本が高度成長期の中にあり、農村も古くからの連帯感を維持しながら、生活の近代化とともに豊かさを享受していた頃であります。こうした中、昭和39年9月に霊山公民館中川分館の開館により、中川区民館となりその際区民会が設立されたとお聞きしております。

以来、常に地区の中核組織として、相互扶助、生活の改善、農業の振興、文化・体育活動などに取り組み、地域の発展、住民の融和に大きな役割を果たしてこられました。特に、昭和49年には中川小学校が掛田小学校に統合となり、これまでの地域のプラットホームの役割を果たしていた学校が廃止となり、区民会を新たな地域の拠り所とするため区民会の組織を見直すとともに、昭和56年に建設された中川集落センターを拠点に中川区民まつりや納涼祭の開催、環境美化や地域に伝わる太鼓の伝承活動に取り込むなど、活動の充実を図ってこられました。

区民会の活動は、地域コミュニティを進めていくうえで時代を先取りした優れた取り組みでありますし、特に現在、他の地域においても、急激な児童の減少により小学校の統廃合が考えられる中、学校に代わるプラットホームづくりとして顕著な実績を残されてきたものであり、先進的モデルとして素晴らしいものであると考えております。

しかし、50年という歳月は、中川地区も例に漏れず、兼業化、若者をはじめとした人口の流出、後継者不足、農林業の衰退に加え、近年は急激な少子高齢化の進行により、かつて経験をしたことのない大きな社会変革の渦中にあります。

こうした地域社会を取り巻く環境の変化、そこに住む人々の価値観

や生活スタイルの多様化に対し、地域の皆さんが「誇り」と「いきがい」を持ち、「助け合い」ながら地域を支えていく、新たな地域運営の仕組みが必要であると考えており、現在、本市では市民協働によるまちづくりを進めているところであります。これまでの地域による地域コミュニティの助け合い機能が衰退しておりますので、地域の中できめ細やかな助け合いや絆づくりを担う自治組織づくりを推進しておりますが、まさに中川区民会の組織や活動は、そうした取り組みの先駆けをなすものであり、今後ともその役割を期待しているところであります。

結びに、50年にわたり営々と築いてこられた中川区民会の先人の皆さまの努力に対し感謝と敬意を表するとともに、区民会のさらなるご発展と、中川地区の皆様のご健勝をご祈念いたしまして、お祝いのことばといたします。



「放射能除染対策」 中川区民会の取組み

2011（平成23年）3・11、マグニチュード9、最大震度7の強い揺れ、国内観測史上最大の津波となり、福島第一原発の爆発事故により、放射能が拡散された。伊達市の放射能区分、A・B・Cとし、中川区はBエリアとなる。中川区民会として次の取組を行った。

平成23年6月27日 中川集落センター前広場の除染として、表土除去の請願書提出する。

7月10日 放射能勉強会を行う。講師により説明を受ける。

11月26日 放射線対策（学童通学路）中川合同会議開催

平成24年5月25日 伊達市、掛田小PTA、区長、子ども育成会、区民会役員伊達市担当者らと除染について協議する。

9月12日 仮置場の検討会を実施（伊達市、区長、区民会役員）

9月27日 仮置場候補地選定会議（西部地区住民、近隣俳作者）

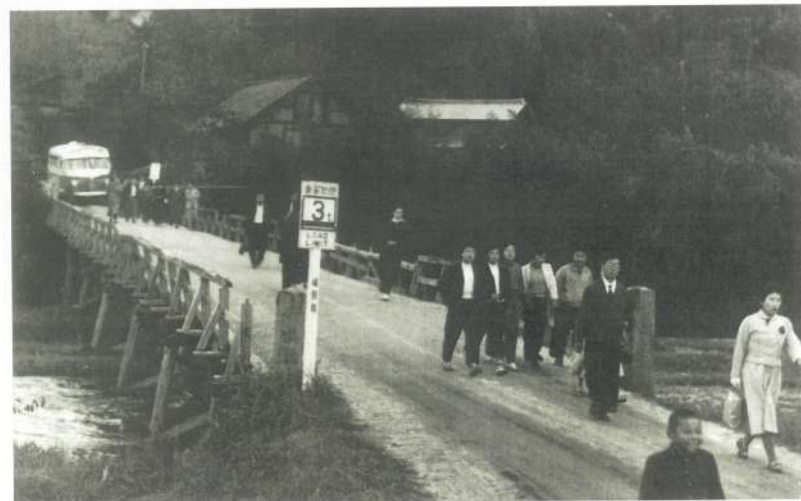
10月6日 仮置場決定お知らせをする。（中川字竹田沢地とする。）

その後地元業者3社により除染実施される。

平成25年5月2日 広瀬川堤防の除染として、立木伐採のお願いを伊達市に提出する。



センター前広場 除染の模様



昭和30年頃の中川の丹鶴橋。県道の木橋が老朽化して、ある日、重量制限の標識が立った。乗客を乗せたままでは重量オーバー。バスは橋の手前でストップし、乗客たちは降りて橋を渡ることになった。（柳沼博氏）

編集後記

中川小学校は明治10年、瀬成田の般若寺を仮校舎として開設されと記されています（中川小学校のあゆみ）。度重なる変遷を経て昭和49年3月中川小学校は閉校となったのです。

小学校は地区民の和合の場の中心として、連合運動会や講堂を貸し切ったの敬老会など数々の催し物を行ってきました。

これよりさかのぼること10年、昭和39年公民館組織の再編により、これまで公民館事業としてきた霊山公民館中川分館が廃止されたのです。

当時の先輩たちは、地区の事業として「花嫁衣裳」の貸し出しなど中川独自の事業を行なってきたことから、独自のサークルを設立することとなったのです。これが中川区民会の発足の経緯です。

当時の中川は、小学校を中心に運営されていたので、事務局は小学校の教頭先生にお願いしていたようです。

このような経過を経て現在の区民会があります。

50年経った今なお創設当時の

意気込みを脈々と守り続けた歴代の役員の功績は計り知れないものがあります。

霊山町や市内でも地区の親睦団体として区民会や、自治会など設立されており、わが区民会はその先駆的な役割を果たしているものと自負しております。

この記念誌は地区民の方々はじめ歴代会長さん、事務局、各部長を担当された皆様方のご協力により編纂させていただきました。

追記

この4月14日編集委員としてお願いしておりました柳沼泰衛さんが逝去されました。

この記念誌の編集は、昨年の10月から始めました。編集委員は永く区民会の役員として区民会の発展に尽くされてきた元会長の柳沼泰衛さん、地域おこし支援員の太宰さん（旧姓鈴木）と会長の菅野さん、事務局の安藤さんと私とで担当しました。

何回目かの編集会議に「都合がつかないで出席できない」との電話が柳沼さんからありました。

あの頃会議とか会合とかで出席できないのではなく体に変調があつて出席できなかったのかと思うと悔やまれます。

以前から区民会の歴史を残そうと持っている資料を私に渡されました。今回50周年記念誌を発刊することになって泰衛さんは情熱をもって編集委員会に出席していただきました。そして、会長時代のこと、霊山神社の遷宮のことや集落センターの建設当時の思い出などを寄稿していただきました。

柳沼泰衛さんが居てこの中川区民会は、存続したと言っても過言ではないと思います。安らかにお休みください。

シーアイエー（株）の柳沼敦子さん（中川大平出身）には編集にあたって大変お世話になりました。

編集委員会 佐藤健治郎

中川区民会 50年のあゆみ

平成26年5月発行

発行者 中川区民会

印刷・製本 シーアイエー株式会社

伊達市梁川町やなわ工業団地90-1

電話：024-577-0075